

唐津・能と狂言

能「籠太鼓」

唐津浜玉町を舞台にした

多久島利之

半能「天鼓」
多久島法子



撮影・吉越研



日時 平成31年3月30日(土)

12:30 入場開始 13:30 開演 ※16:30 終了予定

会場 唐津市民会館 大ホール

佐賀県唐津市西城内6番33号 TEL0955-72-8278

入場料 S指定席(1階) 5,000円・A指定席(2階) 4,000円
自由席(3階) 2,000円・学生席(4階) 1,000円

事前講座 「籠太鼓」を能楽初心者にも解りやすく多久島法子が解説します。
平成31年1月19日(土) 14時開始～15時終了
会場:唐津市民会館 中会議室 料金:無料

券販売所 唐津市民会館 TEL0955-72-8278
古代の森会館 内(唐津・能の里づくり会長 携帯 090-8354-8170)
唐津市ふるさと会館アルピノ TEL0955-75-5155
大濠能楽堂 TEL092-715-2155
佐賀玉屋 プレイガイド TEL0952-24-1151



大槻 文藏
[人間国宝]



野村 萬齋



多久島利之



多久島法子

唐津・能の里づくり

と き:平成31年3月30日(土) 12:30 入場開始 13:30 開演 16:30 終了予定
 ところ:唐津市民会館 大ホール

・お 話 唐津市浜玉町を舞台にした能「籠太鼓」

東 茂 美(福岡女学院大学院教授)

・能「籠太鼓」

シテ(清次ノ妻) 多久島 利 之
 ワキ(松浦ノ某) 御 厨 誠 吾
 間(領主ノ牢番) 野 村 萬 斎
 大 鼓 白 坂 信 行
 小 鼓 飯 富 章 宏
 笛 竹 市 学
 後 見 大 槻 文 藏
 " 武 富 康 之

地謡 坂 口 信 男
 今 村 嘉 伸
 森 本 哲 郎
 鷹 尾 維 教
 鷹 尾 章 弘
 今 久 村 一 夫
 今 村 保 誠 一 郎
 嘉 太 郎

《休 憩》20分

・狂言「鍋八撥」

シテ(鍋売り) 野 村 萬 斎
 アド(羯鼓売り) 深 田 博 治
 " (目代) 野 村 裕 基

・仕舞「頼 政」

シテ(源三位頼政) 大 槻 文 藏

・半能「天 鼓」

シテ(天鼓ノ霊) 多久島 法 子

弄鼓之舞

ワキ(皇帝ノ勅使) 御 厨 誠 吾
 大 鼓 白 坂 保 行
 小 鼓 飯 富 章 宏
 笛 竹 市 学
 後 見 多 久 島 利 之
 " 武 富 康 之

地謡 森 本 哲 郎
 鷹 尾 維 教
 鷹 尾 章 弘
 今 久 村 一 夫
 今 久 保 誠 一 郎
 山 口 剛 一 郎
 今 井 村 嘉 太 郎
 内 政 徳



■関の清次一家の供養塔

能「籠太鼓」あらすじ

殺人の罪で牢に繋がれていた関の清次は脱獄します。松浦某は清次の妻を召し出し尋問しますが、妻は知らぬと言うばかりなので、夫の代わりに牢に繋がせ、牢には時を知らせる鼓をかけさせます。牢の中で狂気となった妻は夫を慕って嘆き、あまりのいたわしさに某が牢から出してやるが、妻はなおも夫を慕い、鼓を打って狂乱し、この牢こそ夫の形見よと言う。見かねた某が夫婦共に赦そうと言うと、妻は喜び、夫のもとへ下ってゆく。狂乱は夫を想い庇う為の偽りでした。「松浦佐用姫」と共に唐津を舞台とした代表作です。

狂言「鍋八撥」あらすじ

所の目代が新しく市を立てるのに際し、一番最初の店についた者をその市の代表と認め免税するという高札を出す。それを見て夜明け前に一番乗りした羯鼓売りが、ひと寝入りしていると、一足遅れて浅鍋売りがやってくる。先を越された浅鍋売りだが、一番乗りのふりをして羯鼓売りの傍らに寝入る。目を覚ました羯鼓売りはびっくり仰天。二人は「自分こそが一番」と言い争いになる。そこへ目代が仲裁に入るのだが…。

さて、羯鼓売りと浅鍋売り、どちらに軍配が挙がるのでしょうか。羯鼓売りの動きにもご注目下さい。

半能「天 鼓」あらすじ

世にも妙なる鼓をもつ少年(天鼓)は、その鼓を召し上げようとする皇帝の命令を拒否したため殺害され、呂水という川に沈められます。今回は半能なので、ここの前半は省きます。

後半「管絃講」という音楽法要によって吊っていると、天鼓の霊が現れ、鼓を軽やかに打ち、興に乗じて遊び戯れます。

「弄鼓之舞」の演出で太鼓が入りよりリズムカルになります。[楽]の舞の笛は高い音色の盤渉調となり、無垢な天鼓が鼓に心を寄せて戯れ遊んでいる様が強調されます。

今回は三曲とも羯鼓が重要な役割となり、どのように使われるかお楽しみ下さい。